

医王山遭難(2021年5月)

家族6人で午後0時30分ごろ医王山に入山。父と子供2人(10歳、8歳)が道迷い。1夜ビバークをし、翌日ヘリで救助された。



解説

妻と末っ子がトンビ岩の手前で家に引き返し、途中で義母が携帯電話の電波が入らないエリアにいたことが不安になり「ちょっと電話の入る場所まで降りてみる」と3人から離れた。義母は道に迷って携帯の電波の入るエリアまで戻り119番通報をして午後4時30分に保護された。

親子はトンビ岩から約300メートル離れた石川県側の豊吉川沿いの西斜面で固まるようにして一夜を明かしたという。一夜明けた5日午前7時50分、富山県警のヘリコプターが同所で立って手を振る3人を見つけた。お父さんが落ち着いて、夜間動き回らずに風裏になる場所で夜が明けるのを冷静に待てたのがよかったのではないかと話した。(HP参照)

登山で「バラバラになる行動」は道迷い要因の一つである。また、午後0時30分入山は遅いといえる。また、来た道に戻れなくなる事例も多く、小さな子供を連れての登山では尚更ではないだろうか。

標高は約600m程度だが5月はまだ肌寒いだろう。しかし、装備にカッパを持っており食料もあったという。夜間歩き回らなかったのも幸いした。今回、ヘリからの発見は、樹林が多いため目視では難しい状況であったが、赤外線カメラを使用し、発見に貢献したという。